第2期（平成28年11月～平成29年3月）

第2期　参加ベンチャー

	企業名	事業内容（要約）	所在地
1	AG株式会社	SNSを活用した料理 動画メディア・コマース	京都市中京区
2	株式会社aim	外国人ネットワークを使ったマーケティング・人材マッチング	大阪市中央区
3	株式会社SAMBAR	海外ゲーマー向けメディアを起点に、グローバルに事業展開	大阪市北区
4	株式会社SPLYZA	アマチュアスポーツチーム向け動画分析／共有アプリ	静岡県浜松市中区
5	株式会社宙オリエンタル	キャリア世代・月額制ワンピースレンタルサービス	滋賀県草津市
6	株式会社パリティ・イノベーションズ	置くだけで映像が空中に浮かび上がる新規光学素子によるディスプレイ・イノベーション	京都府相楽郡
7	株式会社Momo	インテリジェントジャケットプロジェクト	神戸市中央区
8	株式会社レポハピ	消費者のSNS発信力を測定し、データベースとして提供	大阪市北区
9	株式会社Warrantee	固定資産や耐久消費財に特化した個人資産管理サービス	大阪市中央区
10	ワールドインキュベーター株式会社	海外調達を劇的に簡易化する製造業向け調達支援プラットフォーム	大阪市中央区

（応募者数：60者）

実施イベント

2日間にわたってVCから経営アドバイス等を受けるVCブートキャンプ

VCブートキャンプ　×2回（計４日）

本プログラムの特色の一つ
　多数の参加VCからの集中メンタリング
（資金獲得に向けたアドバイス）
　参加ベンチャーからも非常に高い満足度を得ている。

参加VC（19社）
- D4V（Design For Ventures）
- Draper Nexus Ventures
- Eight Roads Ventures Japan
- KLab Venture Partners
- WiL
- グロービス・キャピタル・パートナーズ
- サイバーエージェント・ベンチャーズ
- サムライインキュベート
- ジャフコ
- ニッセイ・キャピタル
- ハックベンチャーズ
- フューチャーベンチャーキャピタル
- 大阪大学ベンチャーキャピタル
- 大和企業投資
- 池田泉州キャピタル
- 池田泉州キャピタル
- 日本アジア投資
- 日本ベンチャーキャピタル
- 日本政策金融公庫

採択されたベンチャー企業と大企業メンターの交流会

メンター交流会　×3回

参加ベンチャーと複数の大企業メンターでグループをつくり、交流し、相互理解を深めながらベンチャーの事業加速をめざすプログラム。（例：最初にベンチャーが今の課題を発表し、グループの大企業メンターと解決に向けて話し合う。）

また、参加ベンチャーの事業領域と大企業メンターの事業にシナジーがある場合は、事業提携を促す。

採択ベンチャー企業同士でブラッシュアップ、課題解決等を行う合宿

合宿

参加ベンチャーの経営陣を集めて合宿を実施

参加ベンチャーからは、「初めて同じ悩みを持っている人に出会え、課題の解決や成長のきっかけを得た」といった感想。

また、合宿を経ることで経営者同士が強く結びつくことから、OIHシードアクセラレーションプログラム参加ベンチャーを核とした、大阪・関西のエコシステムの強化に取り組む。

経験豊富な先輩企業家を招いてのグループディスカッション

先輩起業家とのグループディスカッション ×4回

上場経験のあるベンチャー企業経営者（先輩起業家）と本プログラム参加ベンチャーによるグループディスカッションを実施。

普段、絶対に聞けない話を深く聴くことで、事業の加速を促す。 シリコンバレー等においても、イノベーションエコシステムの構築・強化には、先輩起業家の支援が必須と言われている。

実施イベント

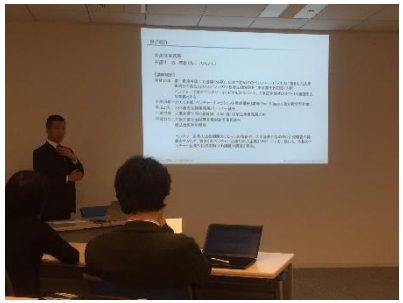
ベンチャー企業の「今知りたい」に応える、各種勉強会

ベンチャー企業向け勉強会 × 4回

参加ベンチャーの経営者からアンケートをとり、必要なものを勉強会として実施

メディア基礎対応

資本政策



人材採用

組織構築

事業成果

合計で約460回のメンタリングを実施

メンタリング回数

大企業	110回以上
VC	230回以上
トーマツ	120回以上
合計	約460回

事業成果

OSAP
OIH Seed Acceleration Program

8件、2億1,930万円の資金調達を実現

資金調達

VCメンターによる投資

SPLYZA

大和企業投資 他3社

大阪発ベンチャー企業
×大阪発ファンド

レポハピ

梅田スタートアップファンド

・・・他、非公開6件含む
資金調達件数8件で

合計　2億1,930万円

1期、2期合計　21件　5億6,830万円

実　績

●イベントレポート	日本語16件（40件）	メディア	
●先輩起業家紹介	日本語4本（8本）	●WEBメディア掲載	20回（22回）
●採択ベンチャー紹介	10社（20社）	●新聞・雑誌掲載	6回（10回）
●メンター紹介	2人（66人）	●テレビ放映	0回（ 3回）
●FB投稿	日本語23本（100本）		
●FBの「いいね」数	1,070（1,437）		

（　　）内は1期、2期合計

メディア関係事例

メディア露出（例）

「日本経済新聞」

aim × 日本経済新聞

日本経済新聞　2016年(平成28年)11月25日(金曜日)

外国人採用で助っ人

大阪のベンチャー

日本語習得

ベトナム人用アプリ

人材マッチング

月500人以上が応募

国内販売100億円狙う

塩野義、徳島大と新療法

ボツリヌス利用

奈良知事、南回り反対

北陸新幹線延伸 京都・新大阪で

与党検討委

大商、ミャンマーと絆太く

最大の経済団体と覚書

企業進出や人材育成

「ASCII.jp」

Warrantee × ASCII.jp

ガチっとスタートアップ 一第98回

Warrantee、あらゆる保証書をスマホで管理

2017年01月17日 07時00分更新

文● ガチ鈴木/ASCII STARTUP

「ガチっとスタートアップ」は、ガチ鈴木が日々の取材で見つけたスタートアップの中から、個人的にグッときたサービス、プロダクトを紹介するコーナーである。

『Warrantee（ワランティ）』は、家電製品などの保証書をスマホで登録して、活用できるスマートフォンアプリだ。大阪のベンチャー企業Warranteeが開発、運営しているアプリによる保証書電子化サービスだ。

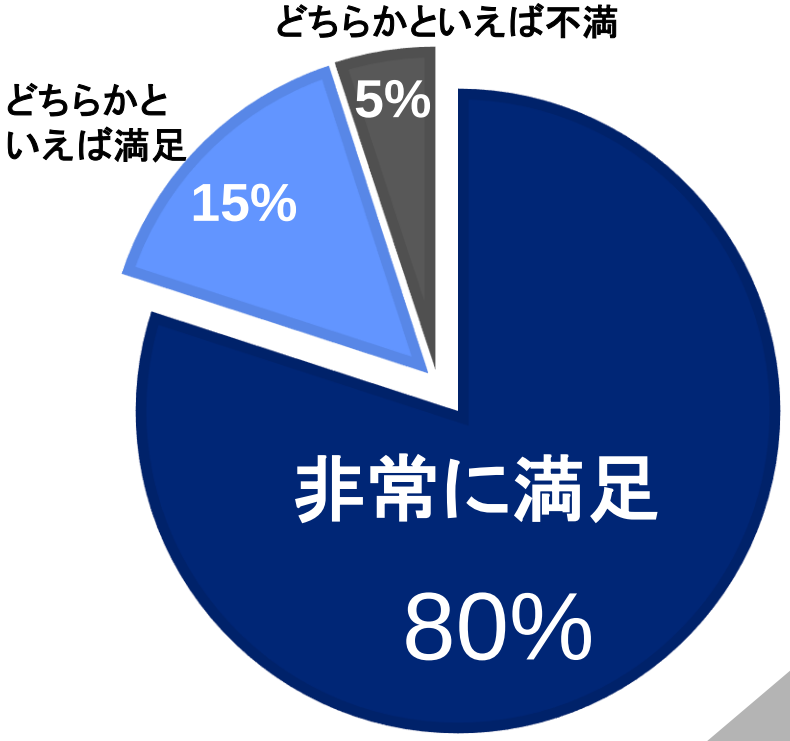
スマホで製品のバーコードを読み取るなどカンタンな作業で製品を登録でき、登録製品の取扱い説明書や情報を閲覧できる。製品は保証期間が一覧で確認できたり、使っている期間、いつ廃棄したかなど利用状況を登録することで、クラウド上で製品のデータベース管理が可能になる。

またアプリから修理や個人情報や製品の型番など伝える必要なく中古査定に出せたり、改修依頼をできるといった、便利な連携するサービスを利用可能だ。

今後は家電だけでなく、クルマ、住宅など自分の持っているモノの資産管理ができるようにサービス展開していく予定だ。すでにアットホームと提携し、住宅備え付けの設備や生活家電の保証をする、不動産向けサービスを提供するサービスも行なっている。

参加企業アンケート

支援先ベンチャー企業に本プログラムの満足度を調査

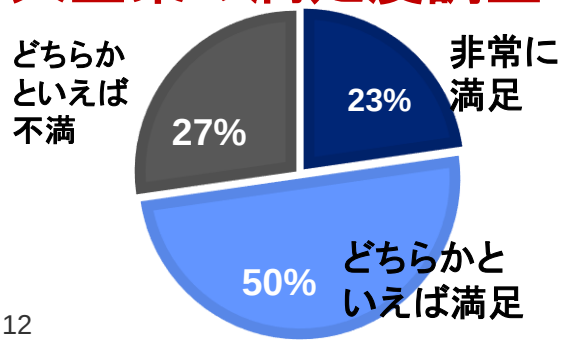


支援先ベンチャー企業の
80%が非常に満足
※非常に不満というベンチャーは無かった

【意見】
・様々な人と繋がれたことが良かった。
（先輩企業家やVC、大企業とつながる「機会」を得たことに対する肯定的な意見が非常に多かった。）

【課題】
・大企業との交流については、温度差を感じる意見が散見された。

大企業の満足度調査



一方で、大企業も、ベンチャー企業との交流について、試行錯誤状態であることが分かった。

メンターとして参加した大企業のアンケートにおいても、「自社とのシナジーが分からない」といった意見があり、「どちらかといえば不満」の割合がベンチャー企業より多かった。

OIHシードアクセラレーションプログラムの評価（目標と実績）

1. 自己評価

	目標	実績	段階別評価	
アウトプット（事業量）	8社～10社程度×2期 （※支援内容については本資料のとおり）	10社×2期	A	20社に対し、本件支援を実施した。
アウトカム（成果）	支援先ベンチャーの1／3以上が大企業との事業連携又は資金獲得できること。（本年度内） 支援先ベンチャーの資金獲得額が1.2億円を超えること（H30年度まで）	大企業との連携3社、資金獲得18社 資金獲得額 5億6，000万円以上	S	連携件数、資金獲得額ともに、目標を大きく上回った。

2. 評議会評価

事業総括コメント	段階別評価
・ベンチャーを支援する拠点にしようという意思がしっかりあらわれているプログラム内容で、成果としてはSでよい。事業を展開する際に多様なパートナーが協力していることでアウトプットとしてはA以上でよい。 ・大企業の満足度が70%という結果であったが、決して低い数字でなく気にする必要はないが、ベンチャーが10社ということで、大企業のニーズに合致するものが対象に入っていなかったり、日本ではまだ大企業側にベンチャーと連携する準備ができていないためと考えられる。大阪イノベーションハブが本当にオープンイノベーションのしっかりとした拠点となるためには大手企業側に対してどういう支援ができるかというのも非常に大きい。	S

評価：S　目標・達成水準を上回っており、特筆すべき進捗状況にある　　A　目標・達成水準に到達しており、順調に進捗している
B　目標・達成水準の到達に向けて、おおむね進捗している　　C　目標・達成水準の到達のために、重大な改善事項がある

次年度方針

平成２９年度もOIHアクセラレーションプログラムを実施。

・継続実施することで、大阪・関西から広く募集を募り、有望なベンチャーの開拓に努める。
・また、日本再興戦略においても、第４次産業革命の鍵とされている「オープンイノベーション」の機運を推し進めることで、ベンチャー企業と大企業の意識のギャップの解消に努める。